

第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
浦野委員	1	139	政策6 健康・保健	<p>国もデジタル田園都市国家構想を進めており、さまざまな分野のDXなど今後いろいろな施策が出てくると思われる。そういった大きな流れの中で、医療・介護・福祉のDXを新潟市が先行して行うことが、拠点化を進めるうえで良いチャンスになるのではないかと。</p> <p>新潟市は様々な健康情報を集めやすいと思われるため、その活用ができるとよい。県や国と一緒に連携しながら、デジタル技術を活かした計画を進めていただきたい。</p>	<p>新潟市が先行して医療・介護・福祉のDXを行うことが、拠点化を進めるうえで重要だと思われる。国や県と連携しながら、さまざまな健診データの蓄積を活用した健康づくりを進めるなど、デジタル技術を活かした施策を盛り込めると良いのではないかと。</p>
浦野委員	2	139	政策6 健康・保健	<p>健康づくりについて、国保の健診や企業の健診のデータがそれぞれの健診機関で止まっていて活用されていないと思う。それらのデータを活用して、医療と健康、予防のところの連携が新潟市で出来るとよいのではないかと。</p> <p>今後、母子手帳も電子化されるほか、学校健診のデータもあるので、それぞれの階層と組織によって途切れることのないように連綿的に新潟市の中で共有できれば健康づくりに役立つのではないかと。本当にリスクのある人に対して、早めに健診を受けたほうがよいよ、医療機関に行ったほうがよいよと受診勧告できるような仕組みが新潟市にできるとよいと思う。</p>	
長尾委員	3	140	政策6 健康・保健	<p>政策指標のうち、市民アンケートによって測る「自分が健康だと思う市民の割合」や「新潟市の医療が充実していると思う人の割合」は、主観的な指標であるため、定量的な指標に変更したり追加したりするとよいのではないかと。</p>	
浦野委員	4	140	政策6 健康・保健	<p>政策指標が市民アンケートに基づくものになるのはそれはそれでよいと思うが、どうしても主観的なものになるため、具体的な取組指標を検討するときに我々にも相談してもらえるとよいのではないかと。例えば、救急医療に関しては救急車の搬送時間や回数、介護に関しては介護度、健康診断に関しては受診率などが市民にとっても分かりやすいと思われる。総合計画の中では客観的なデータもきちんと取り入れる方向性を示したほうがよいのではないかと。</p>	

### 第3部会(第1回) 意見集約表(案)

審議内容: 健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小池委員	5	140	政策6 健康・保健	政策指標「自分が健康だと思ふ市民の割合」とあるが、子どもがどのように感じているかということ盛り込めるとよいのではないか。生涯にわたる健康で安心な暮らしの実現というところに、子どもたちが自身の健康をどの程度認識して生活していくことができるかということも大事な観点になってくると思われる。	生涯にわたる健康で安心な暮らしの実現を図るうえでは、子どもたちが自身の健康を意識して生活していくことも重要であることから、子どもが自分の健康状態をどのように感じているかを測る指標も盛り込めると良いのではないかと。
佐久間委員	6	140	政策6 健康・保健	自殺死亡率が政令指定都市の中でも6位と高い状態であることに対して、悩みを抱える人へのこころの支援の施策が少ないように思う。相談できる体制を構築することも大事であるが、今の中高生を見ていると、悩まなくていいことで悩んでいる人が多くいると感じるため、自分らしさを大事にするというようなことが施策の中に大きく載るとよいのではないかと。周りに合わせたり周りの目を気にしながら生きて行かなくても、もう少し自分らしくてよいのだというように、そもそも悩まなくてよい世の中になるとよいと感じる。	施策1の「④悩みを抱える人のこころの支援」について、周りを気にして過度に悩むことのないよう、自分らしさを大切にするという視点を盛り込めると良いのではないかと。
丸田委員	7	141	政策7 福祉	「地域共生社会」の実現は、福祉分野の政策・施策だけでなく、地方創生、まちづくり、教育、労働など、地域の持続性を高める施策との密接な連携が求められていることから、それをどう計画に盛り込むかが重要である。	「地域共生社会」の実現は、福祉分野の政策・施策だけでなく、地方創生、まちづくり、教育、労働など、地域の持続性を高める施策との密接な連携が求められることから、それらを踏まえて盛り込むと良いのではないかと。
丸田委員	8	141	政策7 福祉	総合計画の中で政策目標を示していくときに、「共生社会」の実現を上位目標とするのか、それとも「地域共生社会」の実現を上位目標とするのか、整理が必要ではないかと。	政策目標として「共生社会」の実現を上位目標とするのか、「地域共生社会」の実現を上位目標とするのか整理すると良いのではないかと。
古俣委員	9	141	政策7 福祉	共生社会はとても広いもので、地域共生社会は共生社会よりも小さいエリアと理解しており、イメージとして共生社会というのは日本国全体で、地域共生社会は区内や市内という印象がある。この政策の中で「地域共生社会」という文言が入っていることはよいことだと思う。	

### 第3部会(第1回)意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
古侯委員	10	141	政策7 福祉	政策7の基本的方向について、「心豊かな地域共生社会」というように「心豊か」という言葉を入れていただけるとありがたいと思う。目指す都市像の中でも使われている言葉であるが、バランスを考えながら「心豊か」というキーワードをちりばめてもらえると、新潟市は心豊かなまちを目指すのだということを若者などからも意識しながら読んでもらえると思う。	政策7の基本的方向について、「心豊かな地域共生社会」というように「心豊か」という言葉を入れると良いのではないかと。そのほかにもキーワードとして「心豊か」という言葉を積極的に使うと、新潟市は心豊かなまちを目指すことが若者などにも伝わるのではないかと。
長尾委員	11	141	政策7 福祉	「心豊か」というキーワードが新潟市が考えている方向性と合っているのであれば、積極的に使っていくとよいと思う。	
今井委員	12	141	政策7 福祉	総合計画の計画期間は8年間であるが、その間に自分や周囲の人たちが置かれる状況や立ち位置は大きく変わると思う。コミュニティ協議会で老人福祉センターの運営しているなかで、認知症と見られる方がなかなか支援に実際に結びつかないということが今でも起こっているが、そのような、自分たちの生活が今後どう変わっていくのかという視点が入ってこない、計画が実際の生活と少し離れてしまうのではないかと感じる。	
今井委員	13	141	政策7 福祉	ストーリー性のある説明やハートフルな言葉が盛り込まれていると、多くの人が身近に感じられる計画になると思う。	

### 第3部会(第1回) 意見集約表(案)

審議内容: 健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小池委員	14	141	政策7 福祉	「地域共生社会」はキーワードとして大事なものであると思う。その根底にあるのは、みんながどの立場であっても参加するということだと思うので、支援を受ける側、受けない側だけではなくて、みんながそれぞれの立場で参加することができる社会を作っていくということが見えるとよいと思う。	<p>「地域共生社会」の実現にあたっては、支援を受ける側、受けない側だけではなくて、市民一人一人がそれぞれの立場で参加することができる社会を作っていくことが重要である。多数派の方々だけではなく、LGBTのほか子どもや若者、一人暮らしの高齢者などの少数派の方々であったり、なかなか今の社会の中での生きづらさを感じている方々が、自分たちもこの地域の中で暮らしていったらいいのだと実感してもらえるような社会をつくることが見えると良いのではないか。</p>
小池委員	15	141	政策7 福祉	政策7の内容が、これまでの多数派の人たちのところに焦点が当たっているイメージがある。多数派の人たちが地域の中で安心して暮らせることは当然大事なことであるが、地域共生社会という言葉を出すならば、LGBTのほか、若者や一人暮らしで高齢になってきた方々など、少数派であったり、なかなか今の社会の中での生きづらさを感じている方々が、自分たちもこの地域の中で暮らしていったらいいのだと思ってもらえるような社会を作ることが盛り込めるとよいと思う。	
今井委員	16	141	政策7 福祉	「政策7 自分らしくいきいきと安心して暮らせる地域共生社会の実現」と大きく書かれているが、内容は高齢者、障がい者、生活困窮が中心になっている。それらだけを大きく取り上げすぎると、隙間が生まれるのではないかという感覚がある。 この総合計画をベースにそれぞれの区や地域で取り組むことになるが、多くを占める高齢者に片寄った施策ができていくということはどうかと思っており、人口が多いところばかりフォーカスされすぎるのも良くないと感じる。	

## 第3部会(第1回) 意見集約表(案)

審議内容: 健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
佐久間委員	17	141	政策7 福祉 政策1 市民活躍	政策7「自分らしくいきいきと安心して暮らせる地域共生社会」の中に、LGBTQの言葉が入っていてもよいのではないか。新潟や北陸はLGBTの理解が進んでいない地域と言われるなかで、新潟市は先行してパートナーシップ宣誓制度を導入しており、そういう方々が胸を張って活動しているというのはよいことだと思うので、盛り込んでもらいたい。	LGBTについて、新潟市は先行してパートナーシップ宣誓制度を導入しており、そういう方々が胸を張って活動しているというのはよいことだと思うことから、いろいろな形の家庭を認めたり尊重することが計画の中でわかるようにすると良いのではないかな。
井上委員	18	141	政策7 福祉 政策3 子育て	高齢者にしても障がい者にしてもそこに性別は関係ないと思うので、地域共生社会のところにLGBTが書かれてしまうと逆差別のような感覚を覚える。それよりは、例えば、結婚や出産に関する部分などにパートナーシップ宣誓制度を記載するなど、いろいろな形の家庭を認めたり尊重することが計画に盛り込まれていけばよいのではないかなと思う。	
井上委員	19	143	政策7 福祉	生涯にわたって健康であるとか、自分らしくいきいきと安心して暮らすためには、いかに若いころから地域の中で関係性が築けるかということが重要だと思う。 年を重ねてから地域に出て行っても、誰かが親身になってくれるといっても相談しにくかったり、心情的にそうになってしまう。子どものうちから地域において、中高年になってもいかに地域と接点を持てるかということは、すべてにおいて重要になってくるのではないかな。堅苦しい施策ではなくて、まちを楽しみながら健康になって、さらに相互共存できる社会になると良いと思うし、そういう視点を強調することが大事だと思う。	
井上委員	20	143	政策7 福祉	単身の高齢者が増えていくなか、亡くなってしまったときにどうするのかというようなことに対して、今以上に制度や仕組みが整っていないと上手いかなと思う。 家族だけではなく横のつながりをいかにつくるか、共生していける社会を確立しておかないと、若者をはじめ新潟に来る人もいないと思うので、いかに地域の人たちとつながっていくかということを大事にしなければいけない時代になると感じる。	
佐久間委員	21	143	政策7 福祉	子育て期から地域に出ること大切だと思う。例えば、公民館は高齢者だけではなく赤ちゃんからみんながいる場所になるとよいと思う。	

### 第3部会(第1回) 意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小池委員	22	145	政策7 福祉	政策7について、若者支援の観点も盛り込んでもらえるといい。20歳前後から大体40代くらいまでの方々、若者に対する集中的な施策が見える形になるといいし、そこに困窮女性への対応も盛り込んでもらえるといい。	政策7について、若者に対する支援や困窮女性に対する支援の観点も盛り込むと良いのではないかと。
長尾委員	23	145	政策7 福祉	政策7について、施策として介護や看護の人材確保が掲げられているが、政策指標に対応するものがないため、それを測る指標を追加するといのではないかと。	政策7について、介護や看護の人材確保の状況を測る指標を追加すると良いのではないかと。
佐久間委員	24	85	重点戦略6	戦略展開の方向に「いつまでも元気でいきいきと暮らせるよう、市民の健康づくりを推進し、生活習慣病の発症予防、早期発見、重症化予防を図ることで健康寿命の延伸を促進します」という文章があるが、生活習慣病への対応だけでは健康寿命は延伸しないと思われるため、表現を工夫するといのではないかと。	生活習慣病への対応だけでは健康寿命は延伸しないと思われるため、他の要素についても触れるなど表現を工夫すると良いのではないかと。
浦野委員	25	85	重点戦略6	(佐久間委員の意見について)一つのキーワードとして健康寿命というものが出ていると思うが、認知症などさまざまな要素が関わるため、市民に分かりやすいように表現を工夫していただければと思う。	

### 第3部会(第1回) 意見集約表(案)

審議内容:健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
今井委員	26	87	重点戦略6	「子どもから高齢者まで…」という言葉は、どうしても子どもと高齢者というところに意識が向いてしまっていて、20代から50代くらいまでの当事者感覚が薄くなってしまっていることがあるため、そうならないような別の表現ができるかというのではないかと。	「子どもから高齢者まで…」という言葉は、子どもと高齢者に意識が向き20代から50代くらいまでの当事者感覚が薄くなってしまっていることがあるため、「誰もが」を加えるなど表現を工夫すると良いのではないかと。
古俣委員	27	重点戦略6	(今井委員の意見について)子どもから高齢者、障がい者という言葉の後に「誰もが」という言葉を入れると、30~40代の子育て世代の方も含まれることが伝わるのではないかと。		
長尾委員	28	重点戦略6	重点戦略6の政策指標「住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができると思う高齢者の割合」について、この重点戦略6は必ずしも高齢者に限った話でないとされるが、高齢者に限った指標を設定するのはチグハグな印象を受けるので、文章を直すか、もしくは全ての世代を対象とした指標にするかというのではないかと。		
					重点戦略6について、戦略展開の方向や具体的な施策の内容と政策指標の整合性を図ると良いのではないかと。

## 第3部会(第1回) 意見集約表(案)

審議内容: 健康・福祉に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
浦野委員	29		- 全般	総合計画として、若者がこのまちに残りたいと思えるような観点をもう少し強く入れてほしいと思う。若者にとって魅力的なまちになる、というメッセージを盛り込めると、さまざまな施策が生きてくるのではないかと思う。高齢の方を大事にするのはもちろんであるが、子どもに寄り添うことであったり、若者が新潟に残ってよかったと思えるようなことを盛り込んでもらいたい。	総合計画全体として、若者がこのまちに残りたいと思えるよう、若者にとって魅力的なまちになるというメッセージを打ち出せると、他の施策も生きてくると思われる。意識的にキーワードを盛り込むなど、子どもや若者に向けた施策をよりわかりやすく見せられると良いのではないか。
小池委員	30		- 全般	持続可能なまちづくりを意識して総合計画を作ろうとしていることはわかるが、全体的に子ども、若者に向けた施策をどう盛り込んでいくのかが見えづらいため、計画全体に対してそのように思う。	
長尾委員	31		- 全般	総合計画として若者や子どもを大切にしようという意図があるのであれば、意識的にいろいろなところにキーワードとして盛り込んでいくとよいのではないか。	



### 第3部会(第2回)意見集約表(案)

審議内容:子育てに関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
佐久間委員	1	127	政策4 子育て	中学生や小学校高学年くらいから、妊娠ができる時期があるということを伝えていかないといけないと思う。 女性はいつでも妊娠できて出産できている人が多いが、いざ妊娠して子どもを持ちたいと思ったときに、年齢的になかなか妊娠しづらくなっているということがある。自分自身のライフサイクルを考えることは大切なので、早い時期に教育ができるとうい。	施策1「出会いから結婚・妊娠・出産・子育てにかけての切れ目ない支援」について、妊娠や出産には適齢期があることを、中学校や小学校高学年とといった早い時期から教育することを盛り込めると良いのではないか。
今井委員	2	127	政策4 子育て	施策1「出会いから結婚・妊娠・出産・子育てにかけての切れ目ない支援」について、出会い・結婚と妊娠・出産というのが一つの施策に入っているところに違和感を感じる。 結婚があって妊娠・出産に至るといことは理解できるが、そうすると、結婚したら必ず子どもを持たなければいけないのかと強いプレッシャーを感じる方もいるかもしれない。	施策1「出会いから結婚・妊娠・出産・子育てにかけての切れ目ない支援」について、出会い・結婚と妊娠・出産が一緒に書かれていることでプレッシャーに感じる人もいられるため、これらを一つの施策にまとめるのが適切かどうかあらためて検討すると良いのではないか。
小見委員	3	127	政策4 子育て	施策1「④子どもが安心して過ごせる居場所づくり」について、放課後児童クラブと保護者との関係づくりが課題だと感じる。 保護者からのクレームが多く、放課後児童クラブとしてはそれに対応するために、子どもの健全育成よりも子どもの管理を優先するような形にならざるを得ない状況があると聞く。放課後の子どもたちの安心・安全な場を作っていくためには、放課後児童クラブの活動に対する保護者側の理解とそれに向けた啓発も必要になるのではないか。	親同士や専門職とのつながりをつくるため、子どもの権利を知るため、教育・保育施設等と保護者との良好な関係をつくるためにも、親として育ち、学ぶことができる機会を確保することを盛り込めると良いのではないか。
今井委員	4	127	政策4 子育て	親が学ぶことはとても重要なことであり、今はコロナ禍もありその機会が限られているが、親が育つ、学ぶための教育の機会を確保してもらいたい。 虐待などにも関連してくると思われるし、自身の体のことであったり子どものことであったり、男性も含めて学ぶことは重要である。保育者へのクレームが多いという話についても、その辺りのすみ分けができる親が増えていくということも大切であり、保育者の質の向上と併せて、親のほうがいっしょに育って、子どもと一緒に育む人たちのだという理解が深まっていかないと、「サービス」として求めることが非常に多くなっていくと思われる。	
佐久間委員	5	127	政策4 子育て	情報がはん濫している中であるからこそ、リアルでつながったり教育を受けることの意味があると感じる。 コロナの影響で十分な妊産婦向けの教育の機会がないまま母親になり戸惑っている方が多いので、情報発信だけでなく、リアルでの教育の場や、母親同士のつながりの場、専門職とつながる場を新潟市として提供してもらえるとよいのではないか。	

### 第3部会(第2回)意見集約表(案)

審議内容:子育てに関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小見委員	6	127	政策4 子育て	産後ケアの充実が重要なポイントではないか。産後ケアは日々満員状態で、待っているお母さんもしらっしやると聞くが、産後のお母さんたちが一人目を産んで、また二人目を産みたいと思えるようなサポートを充実させることは、二人目にいくという部分でとても大事だと思う。	1人目のところの産後のケアを丁寧にしていくことが2人目、3人目につながると思われることから、産後ケアの充実など産前産後の支援を手厚くすることを盛り込めると良いのではないかな。
佐久間委員	7	127	政策4 子育て	現状と課題の「核家族化などによる育児不安の増大」について、メンタル不調を抱えている方や、発達障がいなどの診断を受けた方も増えている。助産師として妊産婦に関わるなかで、きめ細やかな産後のケアや妊娠中のフォローはとても大事になってきていると感じる。 一番の課題は産後のケアで、産後のメンタルも下がり、体も思うように動かないなかでいかに支援があるかで大きく変わってくると思う。その後の虐待予防にもつながるほか、そこでいろいろな人に助けってもらって少しでも楽しい産後を送ることが出来たら、2人目3人目を産もうというところにつながっていくと思われる。 過酷な産後を送る母親は「とても次の子は考えられない」という感じになり、その子がかわいと思えなかったり、できているのにできていないと自分を責めたりする方がとても多いため、産後のケアに最も重きを置いてほしいと思う。	
佐久間委員	8	127	政策4 子育て	産後ケアなどのサービスを使ってほしい母親に限って、お金がないから使えない、無理して自分でやっちゃって体を壊す、という悪循環があるように思うので、市として手厚く配慮してもらいたい。	
小池委員	9	127	政策4 子育て	1人目のところの産後ケアを丁寧にしていくことが2人目、3人目につながっていくという事で、やはり1人目を子育てされている方たちは、子どもを産みたいという思いを持っておられる方たちなので、その方たちの子育てがきちんと支えられれば、自然と次につながっていくというプラスの循環を生み出すような形での書き込みができるよといのではないかな。	
小見委員	10	127	政策4 子育て	特に支援が必要な親子をどうやって見える化して、支援をしていくかということは大事だと思う。 自分自身2人目を持つにあたってハードルが高かったことを思い出すと、2人目、3人目を生みたいと思えるような、親子の産後の支援の充実が改めて大事だと思う。	

### 第3部会(第2回)意見集約表(案)

審議内容:子育てに関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小池委員	11	127	政策4 子育て	新潟市が取り組んでいる施策の内容は決して不十分なものではないと思うが、それが市民レベルや地域レベルのところまで伝わっていないと感じている。 新潟市として子育て支援の旗を立てているというところをもう少し明確に見せていくことができれば、新潟市の子育てに対するイメージが変わっていくのではないかと。	新潟市として子育て支援に力を入れていることが市民に伝わるような見せ方をしていくとともに、情報発信にあたっては、必要な人に的確に届くように、より効果的な手法に見直していくと良いのではないかと。
小見委員	12	127	政策4 子育て	新潟市はいろいろな取組をやってきて充実しているのにあまり伝わっていないということが実感としてある。 アプリなどもそれを使うとどのような良いことがあるか分かりやすくするとか、それで本当に困っている人にきちんとアプローチできているのかといったところは常に見直していく必要があるのではないかと。	
長尾委員	13	127	政策4 子育て	情報発信にあたっては、どのタイミングにどの手法で伝えると効果的なのかということを押さえたうえで発信していくとよいのではないかと。	
浦野委員	14	127	政策4 子育て	子育てしやすさの構成要素としては、医療の観点からいえば、小児科や産科の数、適正な場所に配置されているか、色々なケアが有機的につながっているかといった要素があると考えられる。 そして、妊産婦に対するケア、産後のケア、乳幼児健診や学校健診などもそうであるが、それぞれの施策は動いていても、そのデータが関係者間で共有されていない。ばらばらではなく一体的な取組みができているかが大切で、そういった連携に関する指標も客観的な一つ指標になるのではないかと。	子育て支援に関係する機関が一体となって取組むことでより効果が上がることから、関係機関の連携を進めていくことを盛り込めると良いのではないかと。
小見委員	15	127	政策4 子育て	関係機関が連携していくところを、施策2でもう少し強調するよいのではないかと。 児童虐待が増えている中で、それを早期に見つけてセーフティネットとしての機能を果たすためには関係機関の連携が重要だと思う。	
小池委員	16	127	政策4 子育て	他機関との連携については、子ども子育て支援法に基づく地域子育て支援事業の一つの項目として今後盛り込まれていくと見込まれるので、それを見据えて、現段階から取り組んでいくとよいのではないかと。	

### 第3部会(第2回)意見集約表(案)

審議内容:子育てに関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小見委員	17	127	政策4 子育て	保育園の有期雇用職員は市が主催する研修が受けられないと聞かすが、子育て支援を充実させていくためにも、放課後児童クラブや児童館も含めて正規職員を増やして研修を充実させていくことが必要ではないか。	子育て・教育の施策を推進するうえでは、担い手の量と質が担保されることが重要であることから、施策の内容に合わせた担い手の確保や研修等を通じた質の向上を進めていくことを盛り込めると良いのではないかと。
小池委員	18	127	政策4 子育て	全体に共通することとして、いずれの施策も、子ども・子育て家庭に関わる多様な職種 の専門性が求められている。 施策内容が新潟市の現状に合わせてしっかり盛り込まれている分、その担い手の量・ 質両面からの確保が担保されることが政策指標につながるため「施策内容に合わせた担 い手の確保と研修等を通じた質の向上」を検討していただきたい。	
丸田委員	19	127	政策4 子育て	他の施策にも関係することではあるが、子育て・教育の施策を推進するために、人材の 確保・育成等の基盤強化に向けた戦略や施策が必ずしも明確でないことが気になる。 総合計画において人材の確保・育成等の基盤強化に向けた基本的考え方、戦略や施 策をどのように取り扱うかについて検討が必要かと思われる。特に、子育て・教育の施策 推進においては、人材の確保・育成等の基盤強化は大きな課題であるとの認識を持って いる。	
長尾委員	20	128	政策4 子育て	出生率を上げるためには、労働時間の短縮であったり、経済分野と一緒にやっていか なければ解決できない部分もあると思われる。素案を見るに、関連する施策として働き方 改革なども書いてあるが、子育て分野と経済分野で連携してやっていくというところが見 えない。 さまざまな研究結果も活かしながら、子どもに対する一分野だけではなく経済分野と協 働して行って、婚姻率の上昇であったり、出生率を上げていくための取組を進めていくこ とが書かれていてもいいのではないかと。	労働時間の長さなど両親の働き方も子育てのしやすさに影響することか ら、経済分野と連携・協働しながら取り組みを進めていくことを盛り込めると 良いのではないかと。
今井委員	21	128	政策4 子育て	お母さんたちの悩み事が十数年前から変わっていないと感じている。例えば育休から の復帰に際して悩むことは労働時間の長さで、通勤時間も含めて考えると保育園のお迎 えに間に合わない、送迎が間に合わないという声が多い。そして、それを悩んでいるのは いつも母親で、父親がそこに関わっていないというケースが多い。 女性の就業率が上がっていることはよいことだが、そこ社会がマッチしていないと感じ ている。	

### 第3部会(第2回)意見集約表(案)

審議内容:子育てに関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
今井委員	22	128	政策4 子育て	支援する側、される側と分けるのではなく、お互いに協力し合って、助け合って、子どもたちと一緒に育み合っていく協力者であるという関係性が大切だと思っている。 小さい子どもを育てている現役の母親でも、私はこれで救われたから、新しくママになった人たちにも力になりたい、子育て支援をしたいと話すが大勢いらっしゃるので、そういう方々の力を活かすことも含めて、産後の支援の部分が手厚くなるとよい。	市民の中にも子育てを支援したいと考える方々が大勢いることから、その方々の力を活かせるようコミュニティづくりや情報提供などの支援することを盛り込めると良いのではないかと。
小見委員	23	128	政策4 子育て	「ゆりかご学級」受講後に立ち上げる子育てサークルなどに対して、それらが自律的に運営できるように情報提供などの伴走支援があると子育てのコミュニティとして続いていくのではないかと。	
井上委員	24	128	政策4 子育て	施策1「⑤社会全体で子育てを応援する機運の醸成」について、男性のあり方と民間の事業のあり方と地域のあり方というものを一纏めにしているところを、もう少し丁寧に書いてもよいのではないかと。 本来サポート側に回れる人材とか機関があるはずなのにそこに情報が届きにくくなっていて、潜在的なパワーを活かしきれていないという印象を持っている。社会全体で、という枠組みをアビールすることについてもう少し力強さが欲しいと思う。	子どもは地域や社会にとっての宝物であり、子育てに対して支援することはやがて高齢者にも返ってくる未来への投資であるという意識を持ってもらうことが重要である。さまざまな家庭の形があることを前提としながら、子どもや子育てを地域や社会全体で支えていくことを盛り込めるとよいのではないかと。
井上委員	25	128	政策4 子育て	子どもは社会の宝物なのだという意識が大切だと思う。 子育て世代より上の世代にとっても、子どもに対して支援することは自分たちに全部跳ね返ってくるのだと思うので、未来への投資だと思って、親が頑張ればよいというものではなく社会全体として支援することが大切だということを、施策に反映してもらいたい。	
浦野委員	26	128	政策4 子育て	子どもは地域の宝ということで、多様性を意識しながら、地域全体で育てるという意識が大事だと思う。 さまざまな家庭の形があることを前提としながら、生まれた子どもをみんなで大切に育て、地域のコミュニティなどいろいろな縦横のつながりをもって新潟市全体でそれをサポートする社会にしていくよう、この計画の中で主張できるとよいのではないかと。「子どもは宝」という原点に立った施策にすることで、それを見た多くの市民が子どもを育ててみようという意識になるのではないかと。社会保障費は限られているが、その中でうまく高齢者と分配しながら、どのように子どもに投資するかということを市民全体で考えていけるとよい。	
小池委員	27	128	政策4 子育て	子どもの総数が減り、人口に占める子どもの割合も減ってきている中で、子ども子育て支援はとても大事だと思う。 長期的な視点を持って、今暮らしている子どもたちの幸せを意識しながら施策を展開してもらいたい。	
小池委員	28	128	政策4 子育て	高齢者の方々との配分をどう考えていけるかがやはり課題になってくるのではないかと。限られた財源の中ではあるが未来への投資は大切なことで、大人から次の世代のところに移していくことができるかが問われる8年間だと思う。	

### 第3部会(第2回)意見集約表(案)

審議内容:子育てに関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
小池委員	29	128	政策4 子育て	重点戦略6の「共生社会の実現」というところにつながっていくとよいと思う。 結婚するという形だけではなく多様な家族が、親子が、地域の中に存在していく、社会の中でつながっていくということも入られるとよい。	子育てをする若い世代が参加できる地域のコミュニティを築いていくことが重要であり、結婚するという形だけではなく多様な家族が、地域や社会の中でつながっていくことで、重点戦略6でいう共生社会の実現にも繋がると思われる。SNSなどを通じてそういった人たちが辿り着きやすいような環境を作るとともに、コミュニティに対する補助金などの支援やボランティアが集まるような環境を作っていくことを盛り込めるとよいのではないかと。
浦野委員	30	128	政策4 子育て	地域のコミュニティを、個人情報に配慮しつつ、どのように築いていくかが課題だと思われる。 地域ごとに作るのか、それともSNSなどを使ってバーチャルに作るのか、さらに横の展開をするのか、手法はさまざまであるが、今の若い世代はまずネットで検索するため、SNSなどを通じてそういった人たちが情報に辿り着きやすいような環境を作っていかなければならない。 その中で、自分の近くに高齢者から子どもまで実際に集まるような環境があるということを知り、さらに、それに対して補助金などの支援があってボランティアも集まるような環境を作っていけると、総合的に生きるのではないかと。年齢で細かく分けられないほうがかえってよいのではないかとと思う。	
丸田委員	31	128	政策4 子育て	子育て・教育の施策を推進するために、地域共生社会の実現に向け、地域づくりの一つのかたちとして創設された「重層的支援体制」の整備(構築)をどのように位置付けるか、について検討が必要と思われる。 素案では、重層的支援体制の構築は、重点戦略6において障がいや介護との関連で記載されているが、重点戦略7の子ども・子育てにも関連する重要な取組になることから、総合計画における重層的支援体制の整備(構築)の目的や位置づけ等について検討していただきたい。	地域共生社会の実現に向け、子ども・子育て施策とも関連させながら重層的支援体制を構築することを盛り込めると良いのではないかと。
小池委員	32	128	政策4 子育て	子どもの権利条例は、一部の子どもたちを対象としたものではなく子ども全体に通じるものだと理解している。 政策3及び政策4にわたる全体的な考え方として、子どもの権利を一つずついろいろな方向から守っていきましょうということが盛り込まれる内容になっていると望ましい。	子どもの権利を守ることを全体的な考え方として持ちつつ、さまざまな家庭があるなかでも経済的理由によって子どもたちが取り残されることのないように配慮することが重要ではないかと。
佐藤委員	33	128	政策4 子育て	子どもの権利を守るということについて、能力のある子どもでも遠征経費などを負担しきれず諦めざるを得ないケースもあるが、平等に子どもたちが自分のしたいことができるような環境ができるとよい。	
佐藤委員	34	128	政策4 子育て	学校をはじめとして社会全体でデジタル化が進んでいるが、必ずしもすべての家庭がパソコンなどのデジタル端末を持っているわけではないため、持っていない場合の伝達、周知についても考えていく必要があるのではないかと。	
佐久間委員	35	128	政策4 子育て	新潟市は多子支援が十分でないため子どもの数が増えるほどお金がかかってしまう。 子どもの権利を守る観点からすると、お金がないために教育を受けられないということがないようにしてもらいたい。	

### 第3部会(第2回)意見集約表(案)

審議内容:子育てに関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
佐藤委員	36	128	政策4 子育て	施策2「②子どもの貧困対策と民間団体等との連携」について、子ども食堂に対して「貧しい人が行く」「ご飯が食べられない人が行く」というようなイメージを持っている子どもたちがいるが、そうではなく誰でも来てよいのだということを周知してもらいたい。	子ども食堂は、貧しい人たちのための場所ではなく、誰もが来てよい場所であることがわかるようにすると良いのではないかと。
小池委員	37	128	政策4 子育て	子ども食堂について、施策2②「子どもの貧困対策と民間団体等との連携」に入れるとよいのか、施策1④「子どもが安心して過ごせる環境づくり」に入れる方がよいのか整理してもらいたい。	
井上委員	38	129	政策4 子育て	政策指標A「婚姻件数」について、これからの時代は事実婚などいろいろな形の家族が生まれてくる中で、果たしてこの指標が適切なのか少し引っかかっている。フランスなど事実婚を認めたことで出生率が上がった事例もあることからすると、いろいろな形の家族を認め合うことや社会で支え合うことが最大の目標になるのではないかと。	政策指標A「婚姻件数」について、これからの時代は必ずしも結婚によらない多様な家庭の形が生まれてくると考えられるため、これを指標とするのが適切かどうかあらためて検討するとよいのではないかと。
佐藤委員	39	129	政策4 子育て	今後8年後を予測すると、夫婦での結婚という形は望まずにパートナーとして家族となり子育てをするような場合もあることから、この婚姻件数という指標については別の表現があってもいいと思う。	
小池委員	40	129	政策4 子育て	新潟市の子育て支援の取組は、民間の取組も含めて他の自治体にひけをとらないものであると思っている。共働き率の高さに対して保育施策にも力を入れており、一般的に指摘されている出生数を高める要因は整っているにもかかわらず、なぜ新潟市は子どもの数や割合、有配偶出生率が低いのか、その理由を丁寧に分析する必要があるのではないかと。	新潟市の子育て支援の取組は、民間の取組も含めて他の自治体にひけをとらないものであるにもかかわらず、有配偶出生率など子育てに関する指標が高まらない理由について、具体的にどの部分が不足しているのかを丁寧に分析すると良いのではないかと。
今井委員	41	129	政策4 子育て	政策指標C「新潟市は子育てしやすいまちと思う保護者の割合」について、産前産後ケアが足りないなど具体的にどの部分が不足しているのかを見るためには、細かいアンケートを取る必要があると思われる。	
丸田委員	42	127-129	政策4 子育て	新潟市は少子化対策に向けて、どのような政策・施策に取り組むのか。市民の目線からすると、「5つの視点」に基づき、「重点戦略」と「各分野の政策・施策」をどのように複合化あるいは総合化し、市民レベル、多様なアクターレベル、地域コミュニティレベル、行政区レベル、全市レベルでどのように重層的に取り組んでいくか、という新潟市独自の視点と対策の方向性を示す必要があるのではないかと。	新潟市は少子化対策のためにどのような政策・施策に取り組むのか、市民レベル、多様なアクターレベル、地域コミュニティレベル、行政区レベル、全市レベルでどのように重層的に取り組んでいくか、という点について新潟市独自の視点と対策の方向性を示すと良いのではないかと。

### 第3部会(第3回)意見集約表(案)

審議内容:教育に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
井上委員	1	P127	政策4 子育て	パブリックコメントで寄せられた男女共同参画に関する意見を踏まえると、政策4の施策1に妊産婦の支援について記載されているが、母親の負担を和らげるためにも、父親あるいはパートナーの方への支援ないし教育を強調することが重要だと感じる。	施策1②妊娠・出産・子育て期の包括的な支援について、母親の負担を和らげるためにも、妊産婦の支援だけでなく父親あるいはパートナーへの支援ないし教育を盛り込むと良いのではないかと。
丸田委員	2	P131	政策5 教育	分野3は、子育てと教育の連携を図りながら政策及び施策を推進するという政策的意図があって、「子育て・教育」という構成になっていると理解しています。そのような理解でいいのであれば、政策5の基本的方向に子育てと教育の連携に向けた方向性を示すことができないでしょうか。	政策5の基本的方向に子育てと教育の連携に向けた方向性を示すと良いのではないかと。
長尾委員	3	P132	政策5 教育	新潟市の現状／将来を見据えた課題のうち「地域課題の解決」について、地域課題を解決する人材が必要にあるため生涯学習を通じて人材を育てていくように読めるが、施策2では生涯学習を推進する手段として地域課題の解決があるというように読めるため、どちらに主眼を置いているのか分かるような記載にすると良いのではないかと。	新潟市の現状／将来を見据えた課題のうち、地域課題の解決について、生涯学習の推進と地域課題の解決の関係性を整理して記載すると良いのではないかと。
小見委員	4	P133	政策5 教育	先行きが不透明な中で、これから生きていく子どもたちが、社会に役立っていき、自立していけるようなキャリア教育を実践していただきたい。 令和2年度から導入された「キャリアパスポート」は、小学校から高校までの12年間、自分の学びや自分の進路への考えを蓄積していくツールなので、キャリアパスポートをうまく活用しながら、これからのキャリア教育を推進していくとよいと思う。	キャリア教育の推進にあたっては、令和2年度から導入された「キャリアパスポート」を上手く活用していくと良いのではないかと。
小池委員	5	P133	政策5 教育	幼児期の教育を子どもたちにどのように保障していくかということは大切な観点であるので、新潟市は幼児教育を大切にしていることを盛り込んでいただけるとよいと思います。	新潟市は幼児期の教育を大切にしていることを盛り込むと良いのではないかと。



### 第3部会(第3回)意見集約表(案)

審議内容:教育に関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
佐久間委員	6	P133	政策5教育	ICT教育に関して、子どもたちは先生方の教育のおかげでルールを決めて使っていると思うが、保護者はITリテラシーについて教育を受けることがない。夜9時以降は使わないなどルールを決めている家庭もあれば、管理を子ども任せにしてしまう家庭もあり、それによってネットトラブルが起きるようなこともあると思われる。豊かな心と健やかな体を育成するためにも、子どもたちだけではなく、保護者に対するサポートも盛り込んでいただきたい。	ICT教育について、タブレット端末などの活用にあたっては、長時間使用することで健康を損なうことがないように、保護者も含めて、特性について理解して適切な使用がされるように配慮することを盛り込むと良いのではないかと。
浦野委員	7	P133	政策5教育	学校保健医会などでも毎回ネットとゲームの話が上がっており、今の学校現場ではネットを必ずしもうまく使えていない状況と思われる。携帯端末を与えると子どもたちはいつまでも使用し続けてしまうということで、学校保健とICT教育の連携は重要である。ICTを活用するとともに、節度ある使い方、依存しないような使い方を強調していく姿勢が大事だと思われる。	
今井委員	8	P133	政策5教育	子どもたちは、タブレット端末以外にもゲーム機やスマートフォンなどの画面に触れているため、保護者の立場としてはトータルでどのくらいの時間までなら大丈夫なのか気になる。コロナ禍のなかでオンライン対応も進んでいるが、実際、オンラインでの授業は難しいということで、なかなかそこが実現しないている。学校に行けない子たちの学びの機会の保障という観点からのタブレットの活用も進んでいくと良いと思う。	
長尾委員	9	P133	政策5教育	ITというツールに携わっている立場からすると、アプリケーションなどは、行動経済学や脳の認知機能などをうまく利用して、なるべく長時間見続けるように誘導するような設計がされており、それがビジネスモデルにもなっている。そのため、ITの良い点だけではなく、このような仕組みによって皆さんは見続けているのだという部分についても伝えていけるような指導があると良いのではないかと。	
佐藤委員	10	P133	政策5教育	使い方を指導したとしても、おもしろければ子どもたちは使い続けると思われるので、制限をかけるようなシステムがあれば、学習のほかにもいつまでもゲームをすることはしないのではないかと。	

### 第3部会(第3回)意見集約表(案)

審議内容:教育に関する部分

委員名	No.	素案 ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
今井委員	11	P133	政策5 教育	特別支援教育が手厚くなるほど、インクルーシブ教育とかけ離れていくと感じている。 特別支援学級の中ではいろいろなことを学んで体験して、自己肯定感を育むような声かけをしてもらえるが、通常学級に戻ると手放されたような感じになってしまうため、そのあたりの乖離を感じる。	インクルーシブ教育システムの構築について、特別支援学級と通常学級が乖離していくことのないよう、他者との違いや多様性を認めつつ、お互いのよさを認め合っていくような学びを実現できると良いのではないかと。
小見委員	12	P133	政策5 教育	「協動的な学び」を通常学級でも特別支援学級でも進めていくと、他者との違いや多様性を認めて、そのうえでお互いのよさを認め合っていくような学びが生まれるのではないかと。	
小見委員	13	P133	政策5 教育	文部科学省において、特定の分野に特異な才能のある子どもたちに対する支援についての審議会がスタートしており、アメリカではギフテッド教育といわれているが、才能があって伸びる可能性のある子どもたちにもっと光を当てていく支援というも、今後おそらく国も推進していくと思われるので、新潟市も取り組んでいくと良いのではないかと。	ギフテッド教育といわれる、特定の分野において特異な才能のある子どもたちに光を当てる支援について、新潟市も取り組んでいくと良いのではないかと。  教職員自身の暮らしが安定して幸福であることが、子どもたちにも良い影響をもたらすと思われる。教職員も主役であり、新潟市で先生として働きたいと思えるように、教職員自身の家庭が充実するような働き方の実現について盛り込めると良いのではないかと。
井上委員	14	P134	政策5 教育	多忙により心身を病む先生が増えていると聞く。先生方はキャリア教育やICT教育など対応すべきことが増えて大変になっており、地域との連携についても、助かる部分はあるにせよその下準備もまた大変だと思われる。 新潟市で先生として働きたいと思わせるような、支える側ではなくて教職員たちも主役であるというように、子どもたちのためにも育む側の人々をサポートするような、育む人たちが楽しく教育に携われる感覚になれるような文章になるとよいと感じる。	
小見委員	15	P134	政策5 教育	教育支援をしている団体として、先生方は身を削って頑張っておられると感じている。先生自身の暮らしが安定していて、ウェルビーイングであったり幸福であることが、子どもたちにも良い影響をもたらすと思うので、先生方の幸せの実現も大切にしてほしいと思う。 先生方の男性の育児休業取得率はとても低いと思われる。子どもに身近に居る方々が育休も取れないというのは残念なことなので、先生自身の子育てや家庭も充実していけるような働き方が実現できるとよい。 コミュニティ・スクールを推進することは働き方改革にもつながると言われており、データでも明らかになっている。不登校やいじめなど切実な問題についても、個人情報の問題はあると思われるが、地域の方々と一緒に解決していくような方向性を考えていけるとよい。	

### 第3部会(第3回)意見集約表(案)

審議内容:教育に関する部分

委員名	No.	素案ページ	区分	各委員からの意見	意見集約(案)
今井委員	16	P134	政策5教育	地域と学校パートナーシップ事業などにおいて、PTAや保護者が地域のリソースとして捉えられていないように感じる。保護者が地域の一員として関わることで、学校との関係性も近くなっていくのではないかと。先生方の負担軽減のために地域に移行しようとしていることについても、地域コミュニティ協議会やセカンドキャリアの人たちが頑張るとのことだけではなく、できることをできる範囲でできる人たちがやっていくということの中に入ってこられる人たちが、保護者をはじめ多くいるはずなので、働きかけていけるとよいのではないかと。	保護者も地域住民の一員であるので、地域との連携にあたっては、保護者に対しても協力を働きかけると良いのではないかと。
佐久間委員	17	P133	政策5教育	施策1の「②豊かな心と健やかな身体の育成」の四つ目の○、生涯にわたって心身共に健康に生き抜く力を育むためにということに、性教育を盛り込んでほしい。性犯罪や性被害の増加や若年化が大きな問題になっており、自分で自分の身を守るためにも性教育はとても大切なことであり、一人一人がかけがえない存在で、そして、そのかけがえない命をこれから育む存在であるということ伝えるべきだと思う。また、子どもたちはネットからいろいろな情報を拾うが、早いうちかつ必要な時期に正しい知識を伝えることが大切で、生涯学習やキャリア教育にもつながる内容とも思う。妊娠できる時期は限られているということ伝えることで少子化への対応にもつながり、男女平等の意識も高まっていくのではないかとと思われる。	施策1②豊かな心と健やかな身体の育成について、性被害の増加や若年化が問題になるなか、自分で自分の身を守るためにも、性教育の要素を盛り込むと良いのではないかと。妊娠できる時期は限られていることなど、必要な時期に正しい知識を伝えることでキャリア教育や少子化への対応などにもつながると考えられる。
小見委員	18	P135	政策5教育	新潟市には高校までであるということを見据えた教育が重点的に行われるとよいのではないかと。3校ある市立高校はそれぞれ特色のある学校であり、県立高校も今後ますます特色化していくと思われるため、新潟市としては18歳まで見据えた教育を示していく必要があるのではないかと。そうすると政策指標についても、中学3年生までにとどまらず高校3年生まで対象にするとういのではないかと。高校に進むと、どうしても地域への愛着や地域とのかかわりが減ってしまう部分があるため、新潟市で育った子どもたちは、18歳まできちんと地域への愛着や郷土愛、プライドを持ち続けるということを政策指標で示せるとよいと思う。	新潟市では高校までを見据えた教育を行っていくことを示す必要があるのではないかと。また、政策指標についても、高校3年生まで対象にすることで、新潟市で育った子どもたちは、18歳まで地域への愛着やプライドを持ち続けることを示せると良いのではないかと。
長尾委員	19	P90	重点戦略7	政策5の審議のなかで、教職員の働き方改革に関する意見が出ていたもので、重点施策7についても、保育の質の改善や放課後児童クラブの質の改善に加えて、教職員の働き方の改善や教育の質の向上という要素も加えるとういのではないかと。	重点戦略7について、教職員の働き方の改善や教育の質の向上という要素を盛り込むと良いのではないかと。